第6回 福智町わたしの主張大会／福智町青少年育成町民会議主催

数分に込めた大きな想い

12月3日に公民館金田分館で開かれた「わたしの主張大会」では、町内全8校の代表者が壇上で堂々と自分を表現しました。ここで、その発表の内容をご紹介します。

※各発表者の文章は原文のままではなく、主張の主な内容として要約して掲載していますのでご了承ください。

心をこめて「おはよう」

弁城小学校6年　細川　未久

「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」これほどいさつ以外無いと思います。この一言で、悲しい時、悔しい時、嫌な時も明るくなれます。でも「そんな言葉だけで気持ちよくなるわけない」と言う人もいます。それは、あいさつをしたくないだけだと私は思います。心からあいさつをしている人は、相手も楽しそうにあいさつを返してくれるから、自分も楽しいはずです。弁城小学校では年2回「あいさつ運動」があり、あいさつの強化を行ってます。各分団の4～6年生が校門に立ち、みんなで大きな声であいさつをする取り組みです。私は分団で行く時「せーの」と言って「おはようございます」と言います。その時、下を向いてあいさつする子、小さな声でする子がいます。ある時私は「ちゃんとあいさつしようよ。相手も気持ちよくなると思うよ」と声をかけました。分かってくれたのか、その子はうなずきもう一度「おはようございます」と言いにいきました。それを見た私も気持ちよくなりました。私は、あいさつには、たくさんの意味があると思います。ほんの短い言葉で、周りの人々や自分の笑顔があふれ、幸せな気持ちになれます。こんなに素晴らしい言葉が他にあるでしょうか。他にあるという人も大きな声で言ってみてください。きっとすがすがしい毎日が送れると思います。

なぜ減らない

上野小学校6年　城戸　大樹

大人の勝手で亡くなる命、軽い気持ちで失う命、戻ってこない尊い命…なぜ交通事故は減らないのでしょうか。交通事故の中でも、飲酒運転は最悪です。お酒を飲んだら絶対に、車の運転をしてはいけないと言われているのに、守らない大人が多いと聞くと悲しくなるし、腹立たしく思います。福岡県でも福岡市で2006年に3児死亡事故があった後、飲酒運転はさまざまな人の活動や法による罰則強化で少し減ったけれど、今年は、1～7月の間に160件も飲酒運転事故が発生し、全国ワースト2位という恥ずかしい結果で悲しいです。どうしたら事故が起きなくなるのでしょうか。例えば、車にアルコールを検知する機械があって、キーを入れてもエンジンのかからない車とか、大きな警報音が鳴るとか、そんな車ができるといいなと思います。また、罰則を強化すればいいと言う人がいると思います。確かにそれでも減るだろうけど、一時的です。本当に大切なのは、一人ひとりが「絶対に飲酒運転をしてはならない」と意識することだと思います。飲酒運転のほかにも、交通事故で悲しい思いをしている人がたくさんいます。車を運転する人は、交通事故はたくさんの人を悲しませるということを自覚して、交通規則を守ることが大切だと思います。車を運転する人は意識をもって運転するべきです。

数分に込めた大きな想い

今回、最優秀賞を獲得したのは市場小6年の本田真子さんでした。本田さんは、2月4日㊏10時から香春町町民センターで開催される田川地区大会で、福智町代表として発表する予定です。応援お願いします。

世界が幸せになるように

伊方小学校6年　早麻　康平

いま、世界には、いろいろな理由で苦しんでいる人がたくさんいます。その人たちはどんな気持ちで苦しみにたえているのでしょうか。ぼくたちにできることはないのでしょうか。みなさんはネパールという国を知っていますか。伊方小学校には、毎年、ネパール出身のパンチャ＝ラマさんが来て、コンサートを開いてくれます。パンチャさんは、ネパールでは有名なバンスリという笛の奏者で、ネパールに学校を建てるためにコンサートの収益金をネパールに送り続け、学校ができたのです。伊方小学校もパンチャさんたちの活動に協力し、パンチャさんの学校になんとブランコができました。ブランコを大切に使ってくれ、とってもうれしいです。そこで、ぼくたちは今年、自分たちで栽培したもち米を売ったお金も寄付しました。ぼくはこのお金で、子どもたちにすべり台なども作ってあげてほしいと思っています。たとえネパールから離れていても、ぼくたちにできることは必ずある。ぼくはそう信じています。苦しんでいる理由が差別という人もいます。差別は絶対にしてはいけません。みんなの心が一つになって差別をなくし、みんなが幸せに暮らせるようにぼくは願っています。みなさん、みんなの心を一つにして、世界中を平和にしましょう。そして、みんなが幸せになるために、自分にできることは何かを考えていきましょう。

小さな不安と大きな期待

市場小学校6年　本田　真子

将来ってなんだろう…ずっと思っていました。みんなは具体的な将来の夢が決まっているのに、私は「分からない」の5文字しか浮かびません。だって、将来のことを考えたら不安になるから。私は生まれつき耳が聞こえず、2歳で耳の手術をし、人工内耳をつけました。だけどはっきり聞こえずに聞き逃すこともあり、将来、社会に出た時にうんざりされるんじゃないかと不安です。7月、私が通っていた幼稚園の夏祭りに行きました。「そういえば幼稚園のころ、先生は私がわかるように何回も何回も言ってくれたけど、うんざりされなかった。とても優しい先生だったな」。その時私は「この幼稚園の先生になりたい！」と思いました。「向いてないかも」と不安になることもありますが「これからもずっと私は私。たとえうんざりされても、自分の体をずっと大切にし、向き合っていくんだ」と考えるようになりました。そして、あの時の先生のように、優しく子どもたちと接し、周囲を楽しませる先生になりたいです。幼稚園の先生は子どもたちと話したりするけど、私は聞き逃すこともあるかもしれません。でも私は、相手の口の動きで何と言っているか分かったり、表情で相手の気持ちを受け取ったりできるので、その私にしかできないことを生かして、幼稚園の先生になります。――いいえ、なってみせます。

私にとっての「平和」

金田小学校6年　河端　楓

みなさんは「平和」について考えたことがありますか。今私が思う私にとっての「平和」とは、いつも家族と一緒に笑って暮らすという、ごく当たり前のことです。私がこう思うようになったのは、東日本大震災で家族を亡くした人たちのニュースを見てからです。私は今、ごく普通に家族と笑ってご飯を食べ、好きなことをやって、何でも自由にできます。しかし、こんな普通のことができない人たちが、今、日本にたくさんいるのです。被災地の人たちの中には、家族を失い、家を失い、いまだに避難所で生活をし、十分な食事もできていない人がたくさんいます。その人たちが幸せに楽しく暮らせて、日本は「平和」だと言えると私は思います。今は被災地の人たちをみんなで助け合って支え、そして笑顔になってもらうことが私たちの役目だと思います。私は、被災地に行ってボランティア活動をすることはできませんが、これまで義援金の募金をしたり、被災者と同じ気持ちになって、節水や節電に取り組んだりしてきました。これからも、遠く離れていても同じ気持ちで復興を願い、自分にできることを見つけて、行動に表していきたいと思います。そして、一日も早く日本中の人たちが、笑顔で仲良く当たり前の暮らしができるようになることを願ってます。それが、今私にとっての「平和」だと思うからです。